

# 農業技術

## プリズム

少量散布防除は、四つの病害（灰色かび病、そうか病、黒点病、緑かび病）、二つの害虫（チャノキイロアザミウマ、アカマルカイガラムシ）に対する防除効果が認めら

近年、温州ミカンでは省力化を目的として、各地でドローン防除実用化のための試験が取り組まれていますが、個別の病害虫を対象とした試験がほとんどでした。温州ミカンは発生する病害虫が多く、現地でドローンによる防除が普及するためには、年間を通じたドローン防除体系を構築し、さまざまな病害虫に対する防除効果の検証が必要です。

そこで、重要な防除時期である開花期から収穫期にかけて殺虫剤と殺菌剤の混用散布を含め、年間7回ドローン散布し、3品種4事例について慣行の動力噴霧器による地上散布と比較しました。

### ミカンのドローン防除

## 開花期から7回散布 6病害虫で効果同等

開花期からの防除体系の各病害虫に対する防除価(2022年)

	灰色かび病	そうか病	黒点病	チャノキイロアザミウマ(果梗)	チャノキイロアザミウマ(果頂)	アカマルカイガラムシ	果実腐敗(緑かび病)
ドローン	66	62	97	60	83	100	82
地上散布(動力噴霧器)	73	63	98	45	96	100	88

\*防除価は4試験事例の平均値。数値が高い方が防除効果が高く、最大値は100

れ、その効果は地上散布と差はありませんでした。今後、ドローンで散布できる薬剤を増やすことや防除効果をより安定させるための樹形の試験を行い、ドローンに

よる防除体系の普及を進めていく必要があります。  
(長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門カンキツ研究室専門研究員 小嶺正敬)